

有し、厚手のものも多く、さらに汚れの除去を困難にするので本報ではまず絹人工汚染布を作製して基礎的な洗淨力試験を試みた。

2. 16匁付羽二重、フラットクレープを用い、日本油化学協会洗淨力試験法部会規定の方法により、絹人工汚染布を作製し、洗淨力試験を行なった。

3. (イ)ライトデュティ合成洗剤は、一般にヘビーデュティ合成洗剤およびセッケン洗剤に比し、絹人工汚染布の洗淨効率が低い傾向が認められた。

(ロ)アニオン系活性剤は、一般に絹人工汚染布の洗淨効率が低く、特にアルキルナフタレンスルホン酸ソーダを用いた場合にその傾向が顕著に認められたが、アルキルベンゼンスルホン酸ジエタノールアミン塩では高い洗淨効率を示すことが認められた。

(ハ)ノニオン活性剤は、アニオン活性剤に比し、絹人工汚染布の洗淨効率が、かなり高い傾向が認められた。

B—6 絹の洗たくに関する研究（第9報） 絹人工汚染布の洗淨性について

学習院女子短大 ○斎藤 道香
蚕糸試験場 皆川 基
石野 尚子

1. 絹繊維は他繊維にみられぬきわめて繊細な微細構造を有するために多くの特性を保存するが、その反面汚れの除去に際しては多くの困難を伴う。また絹織物では縮緬のようにヨコ糸に強撚糸が使用された特殊な組織を